大変危険です。

子どもの誤飲!!

子どもは「はいはい」や「伝い歩き」をするようになると、手に触れたものを何でも口に入れるようになります。
公益財団法人 日本中毒情報センターの中毒110番への問い合わせは5歳以下の小児、特に**生後6ヵ月～2歳未満**の乳幼児の誤飲事故が大部分を占めています。
下の絵は誤飲事故の多いものです。このようなものがお子さんの**手**の届くところに放置されていませんか？

たばこ(加熱式含む)

くすり

化粧品

洗剤・洗浄剤、漂白剤

家庭用殺虫剤、防虫剤
(殺虫スプレー、ホウ酸団子など)

危険がいっぱい！

カー用品、灯油

芳香剤、消臭剤

乾燥剤、保冷剤

文具、おもちゃ、電池

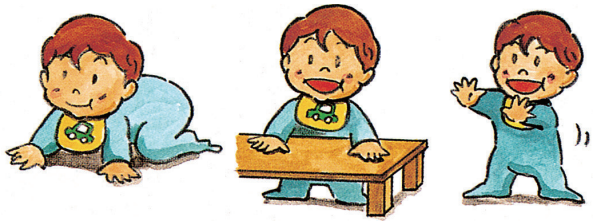
ストップ!! 子どもの誤飲事故

▼大人がちょっと目を離した隙に起こります!!

誤飲事故は、台所仕事をする、電話にでる、洗濯物を干すなど、子どもからほんのちょっと目を離した隙に、あるいは大人が見ている目の前でも起こります。
詳しくは、日本中毒情報センターwebサイト https://www.j-poison-ic.jp の「一般の皆さま」をご覧ください。

▼大切なことは、事故の防止です。

子どもの誤飲事故は、子どものまわりにいる大人が注意することで防げます。注意するものは、子どもの年齢に応じて変わります。
日頃から危険なものを子どもの手の届かない高い所か、鍵のかかる所に保管する心がけが必要です。



●年齢に応じて子どもの目線も変わります。

年齢の目安	注意するもの（後始末や保管管理）
6ヵ月～12ヵ月	床や畳など、低い位置のものに注意 たばこや吸殻、床の上のホウ酸団子や液体蚊取り
1歳～2歳	テーブルの高さにあるものにも注意（台に登ることがある） リモコン・玩具・キッチンタイマーの電池 洗面台や流しの下の洗剤、ポリタンクの灯油ポンプ 防虫剤、鏡台の化粧品、シャボン玉液などの玩具
3歳～5歳	高い場所にも注意（行動範囲がより広くなる） 棚の上の救急箱、引き出しの中のくすり 冷蔵庫の中のシロップ薬、流しの漂白中のコップ

日本中毒情報センター
webサイト

制作：公益財団法人日本中毒情報センター　協力：一般社団法人日本たばこ協会

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® SA-COC001196

子どもの誤飲事故が起こったら　応急手当の基礎知識

・意識がない、けいれんを起こしているなど、すでに重い症状がある時は、直ちに救急車を呼びます。
　意識があり、呼吸・脈拍に異常がない場合は、何を、どの位の量を誤飲して、どの位の時間が経っているのかを確認し、症状がある時は、すぐに医療機関を受診します。
・家庭で無理に吐かせると、吐いたものが気管に入ってしまうことがあり危険です。
　下表のように牛乳や水を飲ませて薄めるとよいものもありますが、飲ませるとよくないものもあります。

誤飲したもの（赤字のものは吐かせてはいけません）	牛乳を飲ませる	水を飲ませる	理　由
石油製品 （灯油、マニキュア、除光液、液体の殺虫剤など）	×	×	・吐かせたり、牛乳または水を飲ませることで吐きやすくなると、吐物が気管に入りやすくなり、入ると肺炎を起こす。
容器に「酸性」または「アルカリ性」と表示されている製品 （漂白剤、カビ取り剤、トイレ / パイプ / 換気扇用洗浄剤など）	○	○	・誤飲時にのどや食道に「やけど」を起こしており、吐かせると薬剤が再びのどや食道を通るため「やけど」がひどくなる。 ・牛乳または水は薬剤の「やけど」を起こす作用を和らげる。
防虫剤 （しょうのう、ナフタレン、パラジクロルベンゼン）	×	ー	・しょうのう（樟脳）は吐かせると、けいれんを起こしやすくなる。 ・防虫剤は牛乳に含まれる脂肪に溶けて体内に吸収されやすくなる。
たばこ（葉、吸殻、加熱式含む）	×	×	・たばこの有毒成分「ニコチン」が体内に吸収されやすくなる。
界面活性剤を含む製品 （洗濯用や食器用の洗剤、シャンプー、石けんなど）	○	○	・牛乳または水はのどや食道、胃に対する界面活性剤の刺激を和らげる。
石灰乾燥剤、除湿剤など	○	○	・牛乳または水は薬剤の「やけど」を起こす作用あるいは刺激を和らげる。

×：行ってはいけない、○：行ったほうが良い、ー：どちらでもない

中毒110番　一般専用電話 判断に迷ったら問い合わせを！

＊あわてずに誤飲したものを手に持って、お子さんの年齢や体重、誤飲したものの正確な名称、飲んだ量など事故の状況をお伝えください。

大　阪：072-727-2499（365日24時間対応）　**つくば：029-852-9999**（365日9～21時対応）

化学物質（たばこ、家庭用品など）、医薬品、動植物の毒などによる中毒事故が実際に起きて、どう対処したらよいか迷った時にご相談ください。応急手当や受診の必要性を薬剤師、獣医師がアドバイスします。
ただし、異物誤飲（プラスチック、石、ビー玉など）や食中毒、慢性の中毒（アルコール中毒、シンナー中毒など）や医薬品の常用量での副作用についての相談には応じていません。

たばこの誤飲

■小児の誤飲事故が一番多いのは「たばこ」です

中毒110番への5歳以下の誤飲・誤食事故の相談で一番多いのは、たばこ（吸殻、加熱式を含む）です。たばこ誤飲事故専用電話を含めると、1日10件以上の相談が寄せられます。
たばこや灰皿を小児の手の届く場所に置かないようにしましょう。
また、ジュースやビールの空き缶を灰皿の代わりに使うのはやめましょう。

■「たばこ」を食べてしまったら

症　状

30分～4時間後に吐いたり、顔が青白くなり、よだれや冷や汗が多く出たり、元気がなくなったりといった症状が現れます。

その時の対応

1. たばこの葉や吸殻を大量に（紙巻たばこ2cm以上、加熱式1本以上）食べた時、あるいは、灰皿の水などたばこが浸かった液を飲んだ時は、すぐに医療機関を受診します。
2. 乾いたたばこを少量（紙巻たばこ2cm未満、加熱式1本未満）食べた時は、症状がなければ家庭で経過を観察します。経過観察中に症状があらわれた時はすぐに医療機関を受診します。まる1日（24時間）経って異常がなければ安心できます。

【注意】たばこに対する感受性は個人差が大きく、少量でも症状が出ることがあります。

たばこ誤飲事故専用電話
（自動音声応答による情報提供）
072-726-9922（365日 24時間対応）

2022年11月改訂版